

## 使うほどに手に馴染む

しょうがわひきもの きじ 庄川挽物木地 × ただ かずひこ 但田 一彦 [富山県砺波市]

加賀藩では庄川を使って木材を運搬していました。それがきっかけとなり庄川地域は一大木材集積地として発展します。その地域の特性を生かし、<sup>これたか</sup>惟喬親王(第55代文徳天皇(在位850~858年)の第一皇子)につらなる東近江市小椋谷<sup>おぐらだに</sup>で免許を受けた木地師・越後屋清次<sup>えちご やせいじ</sup>が、富山県魚津市からこの地に移ってろくろ木地屋を営み、椀、盃、盆などを作り、販売したのが庄川挽物木地の始まりです。木材の<sup>もくめ</sup>杣目を生かした器には一つとして同じデザインはなく、職人が手作業で丁寧に仕上げています。時間とともに色合いに深みが増して、使う人の手に馴染む器へと育つことも挽物木地の大きな魅力。但田さんは現状に甘んじることなく、今までになかった作品を目指し、ガラスや漆工芸とのコラボにも果敢に挑戦し続けています。



●お皿

木地の美しさが際立つ温もりのあるお皿は、季節を問わず食卓に和やかな雰囲気漂わせてくれる。



●コーヒードリッパー

ゆったりした気分の中、上質なコーヒーを味わうことができる。



●内と外を分けたお皿

かつてない立山杉の集成材を活用した作品。



●スイーツプレート

漆職人とコラボしたカラフルなプレートは、使う人の想像力を駆り立てる。



●コーヒーカップ

器の内側から縦に杣目が浮かび上がる意匠は、大人の口元に似合う。



職人の手によって、木に新たな命が吹き込まれていく。

但田木地工房 (ただきじこうぼう)  
〒932-0314 富山県砺波市  
庄川町青島工業団地82-11  
TEL/FAX 0763-82-5301



### 但田 一彦 伝統工芸士

富山県庄川町生まれ

1980年 興栄産業株式会社 島田宗一氏に師事

1982年 家業の但田木地工房に従事

1992年 国際クラフトフェスティバルに参加

2000年 富山県伝統的工芸品展 銀賞 受賞

砺波市庄川美術展 最優秀賞及び北日本新聞社賞 受賞

2006年 経済産業大臣指定・(財)伝統的工芸品産業振興協会 伝統工芸士(総合部門)認定

2017年~2019年 庄川木工協同組合 理事長

2019年~ 庄川木工挽物会 副会長

2020年~2023年 庄川挽物木地 伝統工芸士会 会長

2022年~2023年 富山県伝統工芸士会 会長